

『枕草子』『中納言参り給ひつ』

1、はじめに

・作者：清少納言

・成立：平安時代（1001年ごろにはほぼ完成していたか）

〔平安時代は794～1185年ごろ〕

・ジャンル：随筆

・特徴：平安時代中期に中宮定子に仕えた清少納言が書いた随筆。本来は「まぐらそつし」と呼ばれる。『枕草子』は『源氏物語』の心情的な「ものあはれ」に対して、知性的な「をかし」の世界観を作った。前者は、見て聞いて感じたものをしみじみと思うような感覚で、後者は、感じたものを客観的に捉え表現するようなものと言われる。

・要約

中納言隆家が中宮定子のもとに持ってきた扇の骨を、隆家は「誰も見たことのないほどの骨」だと自讃するので、わたし（清少納言）がへへびげの骨のみつだ」と言ったところ隆家に感心された。これを自分で書くのは恥ずかしい。

2. 1、本文

中納言参り給ひて御扇奉^{おほんあふまたてまつ}らは給ふに、「隆家^{たかいえ}こそいみじき骨は得^えて侍^{はへ}れ。それを張らせて参らせむとするに、おぼろびの紙はえ張るまじけれ、求め侍るなり。」と申し給ふ。「うかやうにがある。」と問ひ聞かせ給へば、「すへてうみじき侍の。」と云ひたまはれぬ骨のそまなり。』となむ人々申す。まじとにかはかりのは見え侍りし。』と云言^{いひ}詞^{ことば}へのたまへば、「おつは扇のにはおぼろびの、海月^{うみづき}のななり。」と聞^きゆれば、「いはは隆家^{たかいえ}が言^{いひ}詞^{ことば}にむ。」とて、笑ひ給ふ。

かやうのいふそは、かたはうらたまひとのうちに入れしべけれど、「しな落^{おち}とし。」と言^いへば、いかがはせむ。

中納言^{※1}参り給ひて^{※2}御扇^{おほんあふまたてまじ}奉らせ給ふに、「隆家^{たかいえ}こそいみじき骨^{ほね}は得て侍^{はべ}れ。それを張^はりせて参^まりませ^{☆1}むとするに、おほひびの^{☆2}紙^しはえ張^はるまじけれ^{☆3}は、求め侍^はるなり。」と申し給ふ。「いかやうにかある^{☆4}。」と問ひ聞こえさせ給入^{※3}ば「すべて^{☆5}いみじう侍^はり。』と^ひまた見ぬ骨^{☆6}のたまなり。』となむ人々申す^{※4}。まことにかばかりのは見えざり。』と^ひ聞ゆれば、海月^{くひづひ}のななり。』^{※5}「と聞ゆれば、われは隆家^{たかいえ}が言^{こと}ひて^ひむす^{☆7}。」とて、笑ひ給ふ。

かやうのいよこそは、かたはらいたまことのうちに入れつべけれど^{※6}。「」つな落としそ

と^ひ言入^{こと}ば、^{☆8}いかがはせむ^{☆9}。

3、補足・注／重要単語

【補足・注】

※1 中納言…藤原隆家のこと。

※2 参り給ひて…中宮定子のもとへ参上した。

※3 問ひ聞こえさせ給へば…中宮定子が隆家に聞いた。

※4 申す…「申す」は「言つ」の謙讓語。ただ謙讓語はⅠとⅡに分けられる。謙讓語Ⅰは、

動作の受け手に対する敬語である。「私が先生に申す。」などで、先生という動作の受け手に

敬意を表している。一方で謙讓語Ⅱは、「私は○○と申します。」などで、ここには動作の受

け手が存在しないため、**聞き手に対する丁寧語のような意味を表す。**このようなものを謙讓

語Ⅱといい、丁寧語ともいう。

※5 なり…「なるなり」の撥音便の無表記化。断定「なり」連体形＋推定「なり」終止形

で「なるなり」がもともとの形だが、撥音便を起こし「なんなり」となる。撥音便とは発音

の都合「ん」に転じること。まじり、「なんなり」から「ん」が表記されなくなった。

※6 かたはらいたまごとのうちに入れつべけれど…きまりの悪いことの中に入れておくべ

きだが。作者（清少納言）はこのやり取りを記録しなくなかったか。なお、直前に「かやう

のことこそは」と係助詞「こそ」がある。そのため普通「入れつべけれ。」と文が終止し、

係り結びになる。しかし、接続助詞「と」が接続しているため係り結びが流れている。これ

を、結びの流れ、結びの消滅、結びの消去という。

【重要単語・文法】

- ☆1 **参らせ**…差し上げる。サ行下二段「参らす」連用形。「参らす」で一語。
- ☆2 **おぼろげ**…普通である、並み一通りである。
- ☆3 **え張るまじけれ**…張ることはできません。副詞「え」は打消表現を伴い「できません」となる。+打消推量「まじ」の已然形。ここでは不可能「できません」。
- ☆4 **いかやうにかある**…(その骨(は)どのようなものか。「いかやう」は「どのよう」だ。「か」は疑問の係助詞。「ある」は、係助詞「か」があるので係り結びで連体形。
- ☆5 **すべて**…たいへん。まったくもって
- ☆6 **ならにまだ見ぬ骨**…まったく今までに見たことのない骨。「ならに」は打消表現を伴い「まったくくない」となる。
- ☆7 **てむ**…してしまおう。「てむ」は完了・強意「し」未然形+推量「む」。完了・強意「し」は「てむ」で用いられるときほぼ強意となる。
- ☆8 **な落とす**…書き落とすな。「な」で「し」するな」となる。
- ☆9 **いかがはせむ**…どうしようか、どうしようもない(=書くしかない)。「いかがは」は疑問や反語を表す。副詞「いかが」+係助詞「は」+サ変「す」未然形+推量「む」連体形。「む」が連体形なのは、「いかが」が係っているから。

5.2、本文と現代語訳

中納言(隆家)が(中宮定子のもとへ)参上なさつて、御扇を(中宮定子に)差し上げなるとき、「**隆家はすばらしい(扇の)骨を手に入れています。それに**

中納言※¹**参り給ひて**※²**御扇奉らせ給ふに、**隆家**こそいみじき骨は得て侍れ。それを**

(紙を)張らせて(定子様に)差し上げるつもりですが、並大抵の紙は張ることができないので、(その骨に)ふさわしい紙を(求めております)。「

張ひせし参りせむしよむおほひの紙はえ張るまじけれ、は、求め侍るなり。

と申し上げなると。(中宮定子が)「その骨はどのようなものか。」と聞き申し上げなると、「たいへんすこひつれ

と申し給ふ。」「いかにかある」と問ひ聞えさせ給へば※³**すべて**☆⁵**いみじう侍**

ます。』**まつたく今まで見たことのない骨の様子です。』**と人々が申す。本当にこれほどのものは見たことがな

り。」「むむまだ見ぬ骨☆⁶**のまなり。』**となむ人々申す※⁴。まことに**かばかりのは見えど**

と申し上げぬ、私(私が)であるならば扇の骨ではなく、海月の(骨)であるようだ。「**と申し上げぬ、海月の**

なり。」「と聞ゆれば、海月のなり。』と聞ゆれば、

「**わを隆家の発言(を)おもしろく、笑ひ給ふ。**

」「は隆家が言(を)おもしろく、笑ひ給ふ。

このおもしろいのは、**はしが悪いらぬの中に入れておへべき**(記録したくないことなの)だが、「**一つも書か**

ずしつな落しそ※⁵**べけれど**※⁶**」**「**一つな落しそ**

と申す。」「**一つな落しそ**」と申す。」「**一つな落しそ**」と申す。

「**一つな落しそ**」と申す。」「**一つな落しそ**」と申す。

「**一つな落しそ**」と申す。」「**一つな落しそ**」と申す。」「**一つな落しそ**」と申す。」「**一つな落しそ**」と申す。

「**一つな落しそ**」と申す。」「**一つな落しそ**」と申す。」「**一つな落しそ**」と申す。」「**一つな落しそ**」と申す。

「**一つな落しそ**」と申す。」「**一つな落しそ**」と申す。」「**一つな落しそ**」と申す。」「**一つな落しそ**」と申す。

「**一つな落しそ**」と申す。」「**一つな落しそ**」と申す。」「**一つな落しそ**」と申す。」「**一つな落しそ**」と申す。

6、品詞分解

単語	品詞等	
中納言	名詞	
参り	動詞・ラ四・連用形・謙讓	作者→中宮
給ひ	補助動詞・ハ四・連用形・尊敬	作者→中納言
て	接続助詞	
御扇	名詞	
奉らせ	動詞・サ下二・連用形・謙讓	作者→中宮
給ふ	補助動詞・ハ四・連体形・尊敬	作者→中納言
に、	格助詞	
「隆家	名詞	
こそ	係助詞（係）	
いみじき	形容詞・シク・連体形	
骨	名詞	
は	係助詞	
得	動詞・ア下二・連用形	
て	接続助詞	
侍れ。	補助動詞・ラ変・已然形（結び）・丁寧	中納言→中宮
それ	代名詞	
を	格助詞	

張ら	動詞・ラ四・未然形	
せ	助動詞・使役・連用形	
て	接続助詞	
参らせ	動詞・サ下二・未然形・謙讓	中納言→中宮
む	助動詞・意志・終止形	
と	格助詞	
する	動詞・サ変・連体形	
に、	接続助詞	
おぼろげ	形容動詞・ナリ・語幹（助詞「の」がついて連体修飾語になる）	
の	格助詞	
神	名詞	
は	係助詞	
え	副詞	
張る	動詞・ラ四・終止形	
まじけれ	助動詞・不可能・已然形	
ば、	接続助詞	
求め	動詞・マ下二・連用形	
侍る	補助動詞・ラ変・連体形・丁寧	中納言→中宮
なり。」	助動詞・断定・終止形	
と	格助詞	

申し	動詞・サ四・連用形・謙讓	作者→中宮
給ふ。	補助動詞・ハ四・終止形・尊敬	作者→中納言
「いかやうに	形容動詞・ナリ・連用形	
か	係助詞（係）	
ある。」	動詞・ラ変・連体形（結）	
と	格助詞	
問ひ	動詞・ハ四・連用形	
聞こえ	補助動詞・ヤ下二・未然形・謙讓	作者→中納言
させ	助動詞・尊敬・連用形	作者→中宮
給へ	補助動詞・ハ四・已然形・尊敬	作者→中宮
ば、	接続助詞	
「すべて	副詞	
いみじう	形容詞・シク・連用形・ウ音便	
侍り。	動詞・ラ変・連用形	中納言→中宮
『さらに	副詞	
まだ	副詞	
見	動詞・マ上一・未然形	
ぬ	助動詞・打消・連体形	
骨	名詞	
の	格助詞	

さま	名詞	
なり。』	助動詞・断定・終止形	
と	格助詞	
なむ	係助詞（係）	
人々	名詞	
申す。	動詞・サ四・連体形（結び）・謙讓Ⅱ	中納言→中宮
まことに	副詞	
かばかり	副詞	
の	格助詞	
は	係助詞	
見え	動詞・ヤ下二・未然形	
ざり	助動詞・打消・連用形	
つ。」	助動詞・完了・終止形	
と	格助詞	
言	名詞	
高く	形容詞・ク・連用形	
のたまへ	動詞・ハ四・已然形・尊敬	作者→中納言
ば、	接続助詞	
「さては	接続詞	
扇	名詞	

の	格助詞	
に	助動詞・断定・連用形	
は	係助詞	
あら	動詞・ラ変・未然形	
で、	接続助詞	
海月	名詞	
の	格助詞	
な	助動詞・断定・連体形・撥音便 の無表記化	
なり。」	助動詞・推定・終止形	
と	格助詞	
聞こゆれ	動詞・ヤ下二・已然形・謙譲	作者→中納言
ば、	接続助詞	
「これ	代名詞	
は	係助詞	
隆家	名詞	
が	格助詞	
言	名詞	
に	格助詞	
し	動詞・サ変・連用形	
て	助動詞・強意(完了)・未然形	

む。」	助動詞・意志・終止形	
とて、	格助詞	
笑ひ	動詞・ハ四・連用形	
給ふ。	補助動詞・ハ四・終止形・尊敬	作者→中納言
かやう	形容動詞・ナリ・語幹	
の	格助詞	
こと	名詞	
こそ	係助詞(係)	
は、	格助詞	
かたはらいた き	形容詞・ク・連体形	
こと	名詞	
の	格助詞	
うち	名詞	
に	格助詞	
入れ	動詞・ラ下二・連用形	
つ	助動詞・強意(完了)・終止形	
べけれ	助動詞・当然・已然形(流れ)	
ど、	接続助詞	
「一つ	名詞	
な	副詞	

落とし	動詞・サ四・連用形	
そ。」	終助詞	
と	格助詞	
言へ	動詞・ハ四・已然形	
ば、	接続助詞	
いかが	副詞	
は	係助詞	
せ	動詞・サ変・未然形	
む。	助動詞・意志・連体形	